# 北総の里

発行日　2013. 12. 18
第　225　号
（第１回発行 1974年４月１日）
発行所　北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎　0478-86-3003
FAX 0478-86-3295


**北総育成園のホームページが新しくなりました！**

施設の概要や理念，利用者の様子，園長からのお知らせ等，盛りだくさん！ぜひアクセスしてみて下さい。

ホームページアドレス
http://www.hokuso-ikuseien.org/

Eメールアドレス
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

▶船橋市手をつなぐ育成会創立60周年記念式典。北総のちちははあにあねと共に。武井園長の手にある遺影はさざんか会初代理事長、故小名木先生。戦後間もない昭和27年。我が子の為にと立ち上がった母の声が大河の一滴となり今日に至る。H25・11・16

特集　続・旅遥かなり

## ①船橋市手をつなぐ育成会 創立六十周年記念式典

副園長　白樫　久子

さる11月16日（土）船橋市手をつなぐ育成会創立60周年記念式典が開催されました。多くのご苦労を重ねた尊い活動の歴史に心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。

当日は船橋市松戸新市長も駆けつけて下さり、盛大に和やかに式典が執り行われました。さざんか会宮代理事長からは、育成会とさざんか会について記念講演があり、改めてその歴史の重みに感じ入りました。そして、京葉学園、北総育成園、ゆたか福祉苑とそれらに続く事業所を次々と切り拓きその運営に尽力された、宮代理事長・山本けいよう前施設長・武井園長に、感謝状が渡され、法人会員として大変誇らしい思いでございました。

戦後の混乱がまだ色濃く残る時代、障害を持つ子の親が電信柱に「障害を持つ子の親達は集まりませんか」との張り紙をして仲間を募ったと、私が入職間もない頃武井園長に教えられました。育成会設立にそのような経緯があり、北総で仕事をすることは、微力ながらもその親御さんたちの心を引き受けていく事なのだと教えられました。

当時の理事長は小名木先生で、船橋市出身の私をなにかと気にかけて下さいました。そして多くのちちははが私達若い職員を励まし、育ててくれました。「私達がいなくなったら、体が動かなくなったら、この子達はどうなるだろう」と心配しつつ、「何とかなるわよ、なんとかしなくては」と笑い飛ばしていた母達。その幾人ものちちははは鬼箱に入られました。親子旅行や保護者合宿で夜遅くまで語らえたこと、親実習として北総の仕事を手伝ってくれたこと、運動会で朝早くから手づくり弁当を携えて参加してくれたこと、その一つ一つが障害を持つ我が子への惜しみない愛情なのだと勉強させて頂きました。保護者と施設が両輪となって、この人達の暮らしを作り守っていく。その必死な熱意は今でも北総に受け継がれています。

今こそ、これからこそ、入所施設の真価が問われています。北総では六十歳以上の方が4分の1となりました。介護が必要な方が増え、医療的ケアの必要性も高まっています。40年前、北総育成園を建設した時はきっと我が子が還暦を超え古希を迎え、介護を受ける日が来ること等夢にも思っていなかったでしょう。

「泣く子おこるな来た道じゃもの。年寄りおこるな往く道じゃもの。」この人達の支援という仕事の中で、私達職員は亡きちちははに想いを寄せて、生きること老いていくことを自身に問いて行くのです。

「慣れないように、泣かないように」。我々の仕事は、ちちははの掌のひと滴が源流であることを心において、これからの仕事に全力でしかし謙虚に進んで参りたいと思います。

特集
続・旅遥かなり

# ②北総40年・新たな旅路
## 新バリアフリー棟に寄せる親の想い

去る11月2日（土）、第69回後期保護者懇談会が開かれました。午前の部では、参加された保護者の皆様に、引っ越しを終え実際に生活が始まった新バリアフリー新棟を見学して頂く時間をとりました。4月29日の前期保護者職員懇談会でも新バリアフリー棟の内覧の時間を設けましたが、この時はまだ引っ越し前で建物の設備や間取りのご紹介のみでした。その後9月に利用者の部屋の引っ越しを行い生活の場が新棟へ。最初は備え付けの家具やベッドだけだったお部屋も、徐々に個人の家具や飾りつけが増え始め、10月には手芸介護班特製の刺し子入り暖簾やベッドカバーが整えられました。この暖簾やベッドカバーはデザインから園長に入って頂き、試行錯誤の末に出来た世界に一つの逸品。保護者の皆様に観て頂く事を目標に丁寧に作り上げたので、当日保護者の皆様から「暖簾の出来がいいね！」「温かい良い部屋になったね！」というお言葉を頂くことができ一安心。自分の部屋やリビングをちちははに見てもらった利用者も誇らしげな表情でした。

これら手作りの品が輝くのも基本がしっかりできているからこそ。これからも我々職員は初心を忘れず「一輪の花」「整理整頓」を励行していきたいと思います。当日参加された保護者の方を代表して4名の保護者の皆様に感想を寄せて頂きましたのでご紹介します。（絵鳩）

### 新棟竣工に寄せて
岩崎　国子（阿部信一さん姉）

保護者会の都度何度か見学させていただきました。この度は完成し園生も引越をすませ園生のいるところを見学させていただきました。園生も生き生きとうれしそうな笑顔でした。このように出来上がるまでにはいろいろ大変な御苦労があったことと思います。

武井園長先生、諸先生方のおかげだと思います。深く感謝し、厚く厚く御礼申し上げます。園生はみな各部屋で楽しそうにすごしておりました。「チョット来て見て」と4～5名の園生に呼ばれ水道のところに行きました。すると「水道はね蛇口のところに手を出せば水が出るし手を引っこめると水が止まるよ」と、ほこらしげに笑顔で、とてもうれしそうに話してくれました。園生のよろこぶ姿を見て私もうれしく思いました。

〝子供達の幸せ〟をと願っていた今は亡き小名木様、父母もどんなにか、よろこんでいることと思います。月日の流れは早いものでしらずしらず年を取り自分の年を忘れ信ちゃんが70になったと聞き、〝えっ、信ちゃん70〟とおどろきました。それから1年たちました。現在は姉弟でなく親になったような気持ちでこの子を残して死ねないような気持ちです。

何にも出来ないのですがそうゆう気持ちです。信一にとって陶芸が出来ることは生きがいだと思います。園生も各自が自分にあった仕事をしていることは幸せだと思います。

園長先生、はじめ諸先生方の御指導に感謝し厚く御礼申し上げます。今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 新棟竣工に寄せる
澪川　高司（和久さん父）

素晴らしい綺麗な建物が出来上がりました。いつも裏道から来るのですが、樹木の中にドーンと聳えたつ白い建物「北総育成園」。素通りが出来ずチョット一休み。

33年間の思い出が次から次と出てきます。全て完成迄あと一年とか。無事故を祈ります。何回か見学をさせていただきました。利用者の方々の満足した明るい顔、個室の主となって責任を自覚されることでしょう。

ソブ川父の夢、実現できたらどんなにか楽しいか、それはなんとエスカレーターのフラット式。

夢、夢、夢です。

▶43家族59人の保護者が参加して下さった。H25・11・2

## 新棟の生活を見て

井上　恒雄
耀子（恒一さん父母）

11月2日保職懇談会終了後私達は、息子恒一に会うため新棟を訪れました。

利用者の皆さんは落ち着いて明るく以前よりも生気を増した表情で、「井上くんお父さんとお母さんが来たよ」と迎え入れ案内してくれ恒一との一刻を過ごすこととなりました。これからも利用者の皆さんはこの素晴らしい環境の中で、働くこと生きることの実践躬行と、楽しい生活を送ることで更に成長し自己の確立を高めて行くことと期待されます。ここに至る迄には武井園長、スタッフの方々の長年に渡る弛み無い努力と実践によるものと深く感謝いたします。

## 北総育成園と我が人生

谷口　昭夫（幸嗣さん父）

北総育成園が40周年を迎えられる。私のところは息子・幸嗣が成人の年に入所させていただいたので、今年で24年目をお世話になったことになる。今更ながら驚くべき歳月であるが、あっという間のようでもあり、また、はるばるとよくたどり着いたものだという感慨にもとらわれる。その思いの深さは先輩の園生並びに保護者の方々にとってはひとしおであろうし、さらに園の先生方の多くにとっても長い道のりと山坂の思い出は、汗と涙と共に尚更だろう。

我が家も一人子の幸嗣が2歳ぐらいから障害に気付き、様々な悩みと共に学齢を過ぎ成人するに当たって、この子の人生をどう過ごさせてやれるのか、何が幸せなのかつくづく考えさせられた。あちこちを尋ねた末「ほくそう」にたどり着いたのだが、ここの生活こそが彼の生きがいを実現し、こころを安定させてやれる唯一最高の場と確信した。わが人生もこの暮らしを支えられることに挑戦してこそ意義あると信じ、その後、いろいろあったが市議員に挑戦し、このたびの新館増設、旧棟改築の予算数十億に及ぶ議決への経過に加われて、少しは役割を果たせたかと感じている。痛恨のことは、幸嗣の母で我が人生の最善の伴侶を今年喪ったことである。此の子とその環境のために、少しでもプラスになれるよう残された生に微力を尽くそうと思いを新たにしている。

特集　続・旅遥かなり

## ③保護者会より永年勤続者感謝状拝受

この人たちを大切にする両輪としての保護者と施設の関係は常に謙虚に、建設的に創られていかなければなりません。その考えは昭和49年、北総開園当初から脈々と受け継がれ今日に至っています。今回、北総創立40周年ということで、北総育成園保護者から「足掛け10年以上の勤務者」について感謝状を頂きました。

「本当は職員全員に感謝の気持ちを伝えたい」との有り難いお言葉を井上保護者会長から頂きました。

この感謝状は北総に勤める常勤職員のみならず、嘱託・パートの方もその対象。70歳になられる草取りパートの福田さんも「この歳になって初めて賞状をもらう」と大喜びでした。

（武井）

**北総育成園保護者会から感謝状を頂いた職員一覧**（10年以上勤務者）

※（　）内は勤続年数

| | | |
|---|---|---|
| ①武井　敏朗（39.06） | ⑨興梠　孝（14.06） | ⑰海宝　政子（34.03） |
| ②城之内英夫（36.03） | ⑩猪田　昌宏（14.06） | ⑱平野　耕三（18.06） |
| ③白樫　久子（28.06） | ⑪飯田　好江（21.06） | ⑲土屋　幸子（16.06） |
| ④高木　恭一（24.06） | ⑫額賀　幸子（26.00） | ⑳高根　悦子（16.09） |
| ⑤青野　豊一（18.06） | ⑬寺田　幸子（15.06） | ㉑武井ひとみ（13.06） |
| ⑥絵鳩　典子（17.06） | ⑭岡澤　富代（24.00） | ㉒大矢　正美（10.07） |
| ⑦保科　智子（15.06） | ⑮荒井　道貴（33.06） | ㉓伊橋　理恵（10.01） |
| ⑧齊藤　到（18.06） | ⑯羽生　真弓（23.06） | ㉔福田百合子（10.06） |

▲ちちははと共に時代を支えた仲間たち。H25.11.2

特集続旅悠かなり④

# 販売に見る「働くこと生きることの今」 (H25年11月分析)

④11/10(日)雨　寒い　船橋市みさき福祉まつり

(担当者；杉本・藤原・㊐菅谷　保護者手伝い２名)

船橋市三咲地区社会福祉協議会主催のイベント。地域のお子さんも多数参加し親子連れで賑わう。

今年の売り上げ：
￥４６，６００
売り上げベスト３：
林産班・椎茸￥22,500
農耕班・野菜￥9,150
手芸班・バック・エプロン
￥7,750

今年の評価：
当日の天候が雨、風共に強く、売り上げアップに繋がらず。そんな中でも紙工芸の手作り和紙の干支人形に興味を持って買って下さるお客さんもおり、販売担当で紙工芸班の藤原さんは一安心。

⑤11/10(日)曇りのち小雨　暖かい

おみがわ YOSAKOI ふるさとまつり

(担当者；加茂・保科・㊐堀川)

旧小見川町(人口約２万５千人)で開催されるビッグイベント。来場者数２万８千人。県内外のよさこいチーム約20チーム、800人以上が集まり「よさこい鳴子踊り」を披露し大賞を競うよさこいイベントが有名。

今年の売り上げ：￥８５，９５０
売り上げベスト３；手芸班・バック、エプロン￥26,400
園芸班・シクラメン￥20,750
農耕班・野菜￥16,700

今年の評価：
心配された天気もどうにかもって客足も良かった。手芸製品が女性やお子さんを中心に良く売れている。衣装を身に付けたよさこいダンサーも売り上げに貢献してくれた。

⑥11/17晴れ　暖かい　栗源ふるさといも祭

(担当者；高木・石橋え・㊐佐々木じ保護者手伝い２名)

旧栗源町(人口約５千人)で開催される名物イベント。来場者数７万人。目玉はなんと言っても「日本一の焼いも広場ベニコマチ無料配布」。会場内150カ所の籾殻の山で５トンのベニコマチを焼き上げる様は圧巻。

今年の売り上げ：￥５４，２５０
今年の売り上げベスト３：
林産班・椎茸¥20,900
農耕班・野菜¥11,600
園芸班・シクラメン
¥7,800

今年の評価：
林産班の生椎茸が多く売れている。地元のお客様が良く買って下さった。保護者の斉木さんが栗源在住で、毎年たくさん御協力頂いている。

① 11/２(土)晴れ　暖かい　後期保護者職員懇談会

今回で69回目。例年4/29・11/3の前・後期２回を常とした恒例の保護者と施設の意思の疎通を図る機会この日各班は手ぐすね引いて「売るぞ！」の体制をとる。秋はシクラメンと干支人形が主力製品。

今年の売り上げ：￥８０，９５０
売り上げベスト３：園芸班・シクラメン￥27,050
林産班・椎茸　　￥20,400
紙工芸班・干支人形￥18,800

今年の評価：ちちははも高齢となり北総に足を運ぶ事も大変な状態ではあるが、我が子の為にと良く買ってくれた。特に陶芸班、紙工芸班の両班はこの日に合わせて干支人形を仕上げ保護者に注文取り。園芸班のシクラメン、林産班の椎茸も張り切って保護者に買ってもらう為の算段をする。手芸班の刺し子製品はお母さんたちに好評。両手に荷物を一杯持って帰るちちははの背中に感謝。笹川なずな工房もパンやジャムを販売。￥37,910の売り上げ。

② 11/3(日)晴れ　暖かい第25回東庄ふれあいまつり

(担当者；興梠・児玉・㊐田久保)

地元、東庄町の一大イベント。人口１万５千人の小さな町だが、毎年この日は町内外から約２万人もの来場者で賑わう。北総がこの地にお世話になって40年。毎年地元の皆さんが北総のテントに足を運んで下さり「いいものができたね」と温かい言葉をかけて下さる。

今年の売り上げ：￥１７４，３５０
売り上げベスト３：林産班・椎茸￥75,400
園芸班・シクラメン￥39,300
手芸班・バック、エプロン￥28,750

今年の評価
椎茸は生も乾燥も売れ行きが良く、追加搬入をしている。シクラメンの出来も良く、たくさんのお客さんが手に取り買ってくれた。

③11/9(土)曇り　肌寒い

船橋市西部公民館・地域福祉まつり

(担当者；菅谷・吉田・㊐山本や　保護者手伝い２名)

船橋市本中山地区社会福祉協議会主催のイベント。地元である保護者のそぶ川さんが毎年声を掛けて下さっている。地域住民の老若男女問わず楽しめるようなプログラムが多種あり賑わう。

今年の売り上げ：￥１２１，６５０

売り上げベスト３：園芸班・シクラメン￥37,950
林産班・椎茸￥28,700
農耕班・野菜￥23,100

今年の評価：曇り空で肌寒い日ではあったが、ボランティアさんもたくさん買いに来て下さった。シクラメンが良く売れている。ビンゴゲームの景品に北総の製品を使って下さり、イベント全体で北総を盛り上げて下さっている。

改めて「働くこと生きること」にこだわる

北総の基本理念は昭和49年の開所以来「働くこと生きること」。例え知的障害があっても大人として生きるという事の基本は「働くこと」。開所当時、男性は畑仕事、女性は縫い物とまだまだ充実した作業展開は出来なかったが、仲間が増えていくにつれて木工や陶芸、園芸と作業が増え、平成元年の増員増築を機に林産班と紙工芸班もスタート。7つの作業班編成となった。利用者がまだまだ若い平成15頃まではどの作業班にも勢いがり、年間の総売り上げが1千500万円に届く時代もあった。その時代を経てここ数年は利用者の高齢化に伴い、介護度が高まり「働く」エンジンが徐々に小さくなる現状。それでも長い年月をかけて大人として「働くこと」を身に付けた利用者にとって作業は「やるべきこと」であり「出番」であり「喜び」でありまさにその人の人生そのものになった。そして作業の歴史はその時代を支えた職員の姿とも重なる。この人たちの仕事は決して大きなものではない。「運ぶ」「磨く」「縫う」「叩く」と一つの動詞で表現できるような仕事だ。そこに付加価値を付けるのが職員の仕事。武井園長は度々我々にメッセージする。「職員はその作業のプロになれ」「けちくさい仕事はするな」。職員が「障害者が作る物だから」といい加減な気持ちでその日暮らしのような作業をすることは、紛れもない人権侵害にあたると思う。自分達だけでわからなかったらその道のプロに習う、先を見越した段取り、客観的なデータの記録、何度も何度も失敗して身に付け高める技術、そして道具の整理整頓。このような事を毎日毎日繰り返し積み重ね、その先にようやく出来上がった製品は利用者と職員の誇りがうんと詰まっている。その製品は各販売や常設店で日の目を見る。

１１月は一年の内最も販売が多い月。毎週ある販売に作業も忙しい。今号ではその販売の報告をまとめた。販売担当者が販売を終え夕方帰園すると「うれたか？」と聞いてくる利用者の姿がある。「売れたよ！」と答えると「やった～！」と大喜び。そんな姿を見るとこれからももっと謙虚に作業に向き合い、その作業のプロにならなければと思う。職員にとっても「働くこと生きること」は大切な指針なのだ。(絵鳩)

⑦11/17(日)　晴れ　暖かい　習志野台地区福祉まつり

(担当者；常世田・金子・㊫瀧波　保護者手伝い３名)

船橋市習志野台地区の８丁目町会、習志野台地区社協主催の福祉まつり。チアリーディングや歌唱、吹奏楽の演奏等多数イベントあり。

今年の売り上げ：¥１３１，８００

売り上げベスト３：

園芸班・シクラメン¥38,500

手芸班・バック・エプロン¥30,050

農耕班・野菜¥28,600

今年の評価：北総に作業ボランティアとして来て下さっている皆さんが当日参加されており、開店前からたくさんお買い上げ下さった北総の作業の様子を知っている分製品にも愛着を持って下さりどの作業班の製品も良く売れている。

⑧11/24(日)晴れ　暖かい　塚田地区福祉まつり

(担当者；青野・三浦・㊫春日　保護者手伝い４名)

船橋市塚田地区社会福祉協議会、塚田地区公民館共催の福祉まつり。公民館内では合唱や吹奏楽、踊りなど多彩な舞台発表があり、屋外では販売ブースが並ぶ。今年は噺家さんをお招きしての講話と落語があり、来場された皆さんが楽しまれていた。

今年の売り上げ：¥91,200

売り上げベスト３：

林産班・椎茸￥33,900

農耕班・野菜￥23,300

園芸班・シクラメン￥15,500

今年の評価：お客様の殆どが北総にボランティアに来て下さった方々であり、口々に北総の製品の質の高さを褒め買って下さった。ボランティア活動を通して北総とはもう二十年来のお付き合いになるお客様もおり、改めて継続の大切さを感じる。社会福祉協議会の皆さんも「北総の為に開いているようなものだから、いくらでも品物を拡げてもいいよ」と本当に有り難いお言葉を掛けて下さった。

⑨11/24(日)晴れ　暖かい　　北習志野販売

(担当者：斉藤・㊫菅谷　保護者手伝い２名)

京成北習志野駅前商店街の歩行者天国を利用しての販売。基本的に毎月第４日曜日に開催される。その歴史は古く北総の第一回目の参加は昭和56年まで遡る。今年で32年目を迎える北習志野販売。保護者の協力もあっての大切な販売場面であり、まさに北総の船橋市での販売の草分け的な存在だ。

今月の売り上げ：¥53,450

売り上げベスト３：

園芸班・シクラメン¥17,300

農耕班・野菜¥15,800

林産班・椎茸¥7,500

今年の評価：駅前の歩行者天国とあってやはり食品関係の品物が人気。北総でも農耕班の野菜や林産班の椎茸が良く売れている。お客様は近隣の団地の住民の方などで賑わう。この日のお客様は殆どが女性であった。

11月の販売総売り上げ：￥８４０，２００

農耕：¥163,050 園芸：¥207,900 木工：¥32,700 陶芸：¥17,350 手芸：¥129,550 林産：¥244,400 紙工芸：¥45,250

11月は3日の「文化の日」もあるように各自治体主催の文化祭も多く、一年の内で一番販売場面が多い月。7つの作業班はそれぞれこの11月の販売に照準を合わせ製品を仕上げる。特に園芸班のシクラメンや、陶芸、紙工芸班の干支人形は時期ものであり11月にいかに売るかが重要なポイント。もちろんその他の作業班も毎週ある販売場面に十分な数を用意する為、いつも以上に作業に活気が出る。11月の販売を乗り切ると一段落。寒い冬、そしてその先の春、新年度に向けそれぞれの作業班の「働くこと生きること」がまた始まる。

街道をゆく ⑫③

# 〝東常縁〟縁起

武井 敏朗

とうのつねよりと読む。東常縁は郡上東氏の9代目にあたる。1，400年代の初めに生まれ、文明16年（1484）頃亡くなったとされる。父親・益之について京都歌壇に出入りし歌学の上からはたいへん実直な勉強ぶりで一目置かれる存在であったらしい。当時の勅撰和歌集は「新古今和歌集」である。勅撰とは勅命、つまり帝が命じて作らせた和歌集ということになる。この新古今和歌集には彼の入選作は入っていないらしい。かなりの作り手であることは今に伝えられているが…。このことを司馬遼太郎が「街道をゆく」郡上・白川道で触れている。〝室町期は日本の歴史の中でももっとも文化意識の高まった時代であった。平安期の文化はよくいわれているように王朝貴族が独裁し、くだって鎌倉期になると時代の主人は武家になったが、しかしかれらはまだ自分の領地の田の泥にまみれていて野趣から抜け出せなかった。室町期になって、常縁や妙椿という在郷のあいだまで文化が浸透し自分の行動の基準を、利害よりときに文化意識で決しようという例があらわれてくる。…〟東常縁はそれほど有名な人物ではないが、中世から近世にかけては、古今伝授の創始者として和歌の世界を中心に相当な尊敬を受けていたと考えられる。つまり、当時の和歌の大家（大先生）であったのだろう。

今回の話はいったい「何なんだ」、読者諸氏の訝っておられる表情が思い浮かぶ。郡上東氏とは現在の美濃国、郡上八幡を縄張りとした鎌倉から室町に続く領主である。そして、その元をたどれば関東の豪族・千葉氏に遡る。千葉県の名の由来はこの千葉氏である。源頼朝が鎌倉政権を樹立したのは1192年のこと。それに到る過程では多くの辛酸を舐めている。安房の国、○○に助けられ、安房上総・下総の豪族の加勢で態勢を立て直した経緯は読者諸氏の方が詳しい。千葉氏一族・東常胤（つねたね）もその一人で頼朝は「わが父も同然」と頼ったとされる。香取郡一帯をもらって現東庄町の高台に居を構える。須賀山城がそれである。二代重胤（しげたね）は三代将軍・実朝の近侍で歌の師であった。その後〝承久の乱〟の戦功で美濃郡上を加領され、東氏は拠点を下総・東庄から美濃・郡上に移すこととなった。

2013年から遡って1000年。今も美濃・郡上と下総・東庄はその誼の人事交流が続いている。地方に根付くえにし（縁）とはかくなるものか…。感服するばかり。

さて、須賀山城のことに触れる。この広報〝北総の里〟前々号で〝北総育成園40周年記念事業〟として〝須賀山城整備〟を取り上げた。当園の地続きである須賀山城はその後破却され、椎木の森として幾百年。空堀や土塁、一の丸、二の丸、本丸はそのテラスの形をそのまま温存しながら…。その椎木に覆われた城跡は50m眼下一面に東庄町笹川の桁沼水田を抱える。その取っ付き根方集落に大門、小門の名が残り、山裾の東福寺、岡飯田芳泰寺には東氏ゆかりの五輪の塔が風雨に削られ苔生して現存。

その須賀山城跡は篠竹が生い茂り立錐の隙間もない。立ち木であれば鋸で切り進めるが密集した篠竹林には竹切り鋸ではなはだ能率が悪い。草刈機は硬い篠竹に跳ねとばされてしまう。さながら屈強な篠竹の要塞である。

T・Kさんは北総25年のベテラン職員。この須賀山城整備責任者にした。彼は自然派で自然と格闘する心得が他の職員より抜きん出ている。それを見込んでのことである。この取り組みが始まって10カ月。遅々とした篠竹片付けを波状攻撃で少しずつ片付けた。やっと足場は確保された。その度に1000年前のもののふの声を聞きながら、この整備事業は継続される。春三月、さくらの頃に一段落か…。

▲篠竹の森を切り拓くと須賀山城本丸広場が現れてきた。

▲岐阜県郡上市の乗性寺に伝わる東常縁の肖像

# 北総俳壇

☆最優秀賞
＊優秀賞

☆安藤　悠果
一人部屋 一人でくつろぎ 笑い声

＊興梠　孝
新築の 壁の西日に トンボ二匹舞う

□金子　春菜
チクチクと 針をすすめる 池田さん
きれいな刺し子を いつもありがとう

＊三浦　圭織
新棟で 迷子になるのは 職員も

□高木　恭一
千葉氏らの 築きし砦 須賀山城
今はためくは 武田菱かな

□杉本　和彦
農耕の 芋見てやりたい 焼き芋大会

□石橋　琴美
秋冬も 汗かき働く 林産班

＊絵鳩　典子
新棟の 灯りが照らす 帰り道

＊加瀬　裕一
大根に よく育てと 祈り込め
間引きを終えれば 収穫の秋

□藤原　加奈
干支人形 たくさん売れれば うれしいな

□篠塚奈緒美
朝会うと 笑顔で「じぇじぇじぇ」
ここにもいたか 朝ドラファン

□遠藤　武史
電動の ロクロ回すも
いつまでたっても歪んでる

## 選者寸評

バリアフリー新居住棟の暮らしが始まった（この工事は本館・旧居住棟の耐震大改修工事を残しているので、心置きなく新しい環境を享受するにはもう一年の間が必要）。今回この新居住棟についての投句が多かった。

これまでの40年は雑居部屋の暮らし。今度は一人部屋。廊下を通ると○○さんの部屋から笑い声が聞こえる。きっと一人部屋の満足感に浸っているのだろうと作者は想像したのだろう。安藤さん。一席とした。三浦さん。新棟に慣れない職員を揶揄。興梠さん絵鳩さん。新棟と私の距離が面白い。加瀬さん。大根よ！よく育てと祈る。その先に今年の切干大根への決意。

相変わらずへたくそな句ばかり。しかし、心が伝わってくる。この人たちとの暮らしに注がれる目線は温かい…。

「虎風山人」

# 村議会だより ⑪

新バリアフリー棟に引っ越して2か月。利用者の方もだいぶ新しい環境に慣れてきた。

そんな新しい生活の中でも村議員としての取り組みをアピールさせてあげるのが私たちの仕事。

節約課の活動は水道の出しっぱなしの点検や不必要な電気の点灯のチェックである。しかし、新バリアフリー棟の水道はセンサーで感知され自動で出て自動で止まる。トイレの電気も自動でついて自動で消えると言った何とも節約課泣かせな仕組みになっているのだ。それでも節約課の池田課長は毎週欠かさず係活動を行い「点検しました」と誇らしげに報告書を出してくる。環境が変わっても8年連続村議員当選の池田さんには今までの習慣がしっかり根付いており、活動への取り組み方は変わっていない。何でもかんでも自動で済む生活は、果たして便利な生活と言えるのだろうか？現に職員はセンサー式の電気に慣れてしまい、手動で電気を付けなくてはならない部屋でもじっと待ってしまうという様子がちらほら…。それに比べると利用者の方が適切な行動をとっているような…。便利な生活が利用者の出番や役割を奪う事がないよう、村議会としても様々な工夫をしていきたい。

（菅谷）

# みんなの広場

## ①おかえり真理さん

9月13日からずっと入院していた真理さんが11月6日に帰園した。真理さんが帰ってくると聞いてから、ずっとソワソワ。夕方既にあざみ寮のリビングに座っていた真理さん。「真理さんおかえりなさい！」と声をかけると、「うきゅ。」とまりさん言葉を返してくれた。久しぶりに見る真理さんはやせていたが、前と変わらずで安心した。そして元気に北総に帰ってきてくれたことが何よりも嬉しかった。これであざみ寮が全員そろった。体調面や歩行等十分に配慮が必要だが、これから皆で楽しく生活していこうね。真理さん。

（内田）

## ②Oさんの楽しみ

現在74歳のOさん。元々下肢障害はある方だが、自分の足で歩き身の回りの事も自分で行っていた。作業班は手芸班に所属し、手芸班創生期の頃はロックミシンの名人だったと先輩から聞いている。手で縫うしつけかけも上手で働き者の女性。そんなOさんも年を取り70歳を迎える頃から歩行時の不安定さが目立つようになってきた。足も痛むようで「あしがだめになっちゃったわねぇ」と膝を摩る姿も増えてきた。職員が支えながら何とか

歩いていたが、それにも限界が来て2年程前より車椅子に移行。身辺面でも介助する度合いが多くなり、昨年は病気の手術も行って食事摂取量や排泄の様子は職員間で引継ぎ情報を集約している。そんなOさんはお風呂が大好き。綺麗好きなOさんは体を隅々まで納得いくまで洗わないと気が済まない質で、いつも30分位かけて洗う程。きれいに洗って湯船に入ると本当に気持ち良さそうな表情を見せてくれた。しかし、介護度が高まり車椅子生活になった今、機械浴の設備がない北総ではOさんをゆっくり湯船に浸かわせてあげる事は難しい。せめてもと一人サイズのバスタブを用意し職員2人がかりで入浴介助。以前は自分で洗っていた体も手が届かなくなり職員が代わりに洗う。背中や足の指など職員が洗うと「もっとよくあらってよ」と注文がくる。「はいはい、このくらい？」とゴシゴシ洗うと「そうそう」とOさん。そして職員2人で体を抱えてミニバスタブへ。温かいお湯に浸かり気持ち良さそうな表情。そして「あなた、あらうのじょうずねぇ」と職員を労ってくれる様子もある。そんな言葉を聞くと介護度が高まり以前と同じ生活は出来なくとも、生活の質を下げてはいけないと改めて思うのである。　（絵鳩）

## 太田川のほとり ⑫1

# 宮城県亘理町へ朝顔を届ける

支援員　加瀬　裕一

初夏の蒸し暑い7月6・7日、みづき会の樋口先生の掛け声を受けて東日本大震災の被災地である宮城県亘理町の鳥海塩神社にて行われる植樹祭の手伝いに参加してきました。北総に出来る事として「夏の風物詩・朝顔を見てもらおう」という思いで菅谷主任と120鉢の園芸班の朝顔を届けに行き、被災地の方々に受け取っていただきました。

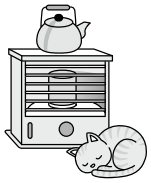
男二人でトラックに揺られ気分は長距離ドライバー、無事に亘理町に到着し、海岸沿いを見に行く。押し寄せた津波の爪痕は未だに深く刻まれ、倒壊した住宅や塩害の為耕作不可能な田畑が一面に広がる。その光景を目の当たりにし私も菅谷主任も言葉を失った。二年半経っても復興は道半ばであり、そこには長い苦難が待ち受けている。しかしその辛い現実に立ち向かう現地の方の「ここで生きるぞ」という強い意志・覚悟はひしひしと伝わってきました。

翌日は6時半に集合し仮設住宅のラジオ体操に参加し、植樹祭の会場である鳥海塩神社へ。北総の朝顔は決して立派な出来栄えとは言えませんでしたが「きれいだね」「風鈴がいいですね」と見る人の心に訴えるものがあったようで、見てくれた方のほとんどが持ち帰り募金を頂くことができました。「花を見ると心が和む」と目に涙を浮かべながら朝顔を持っていってくれた女性の言葉が震災を物語っており、今回の朝顔届けが現地の人の為に微力ながらも役立ったのかと思いました。北総のブースで集まった募金を寄付し、残った20鉢程の朝顔は近くの仮設住宅へ。仮設住宅の職員さんに渡し、記念撮影。何度も「ありがとうございます」と感謝の言葉を頂く。現地の方と係わる事は「百聞は一見に如かず」の言葉通り沢山のことが学べ、現地に来た意味を感じました。

震災についてと我々福祉に関わる人間に何が出来るかを学ぶ良い機会となり、多くの事を学ぶ事が出来ました。今回の朝顔届けに出させていただきありがとうございました。

▲鳥海塩神社へ。地域の皆さんに朝顔をお届けした。H25.7.7

## 編集後記



広報紙「北総の里」の長い歴史上、二人目の男性編集員。「自分で果たして務まるのか」という不安の中での編集作業開始となりました。改めて感じるのは思いを文章にし、読者の皆様に伝える事の難しさ。武井園長、絵鳩課長に丁寧な御指導を頂きながらどうにか発行する事が出来ました。読者の皆様の反応を気にしつつ、ホッと一息。気付けば北総にお世話になり3年目となりました。「働くこと生きること」の暮らしの中で、所属する農耕班は開所以来の伝統ある作業班。利用者さんと汗を流す毎日の中で鍛えられる日々。今年採れた玉ねぎは4トン、途方もない量に思えたが皆様のおかげでどうにか売り切る事が出来ました。来年の植え付けも終え、次はいよいよ切干大根作り。今年は大根の畑作り、種蒔きと行い収穫がとても楽しみ。干場のフレーム作りもやりました。寒風に震えながらの作業となりますが利用者・職員一丸となって良いものを作っていければと思います。

（加瀬）